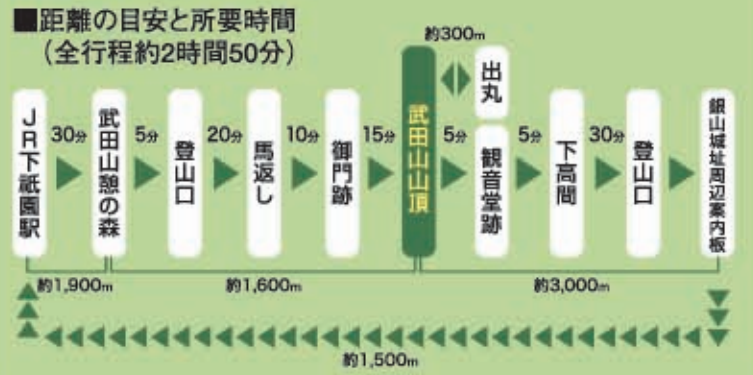


武田山指南 モデルルート 祇園・山本ルート



祇園・山本を通過して武田山山頂に至るルートは、往時を忍ぶ史跡などが多く残る、おすすめのルートです。地元のボランティアグループ作成の道しるべや、子どもたちと一緒に作成した樹名プレートなどもあります。

- 交通機関
最寄りの駅: JR可部線「下祇園駅」(JR山陽本線広島駅から15分)
- トイレの場所
JR可部線「下祇園駅」
武田山麓の森



*所要時間はあくまでも目安です。無理のない計画を立て、ゆとりを持って歩きましょう。

登山口まで歩いてみよう! (地図は裏面に) 所要時間 約35分

- ①駅前広場に地域団体が協力し商工会が設置した案内板があります。
- ②駅から南へ。突き当たりを右折。
- ③油谷踏切を渡り長束八木線へ。
- ④南下交差点を渡り、JA広島市祇園支店の横を直進。
- ⑤突き当たりを右折し、武田山の標識を目印に、北西の細い道へ。
- ⑥武田山麓の森への標識。
- ⑦武田山麓の森へ向かいます。
- ⑧武田山麓の森の奥に、武田山登山道の標識があります。

銀山城築城史

鎌倉時代の末期、武田信宗が、武田山の東尾根に小規模な山城(3カ所の郭を丘陵の東に段階的に並べた)を築いたのが銀山城の最初と言われています。

信宗の子・信武は、武田山全山を強固な城郭にするべく、建武2年(1335年)頃から数年の歳月を費やして山頂を中心とした尾根上の城を築いたと言われています。

その後、各時代の状況に対応して修復・拡張され、戦国時代の初期に完成しました。以後、安芸国最大規模を誇る難攻不落の城として、天文10年(1541年)の大内・毛利連合軍の攻撃で落城するまでの200年余、外敵から安芸国を守り続けました。

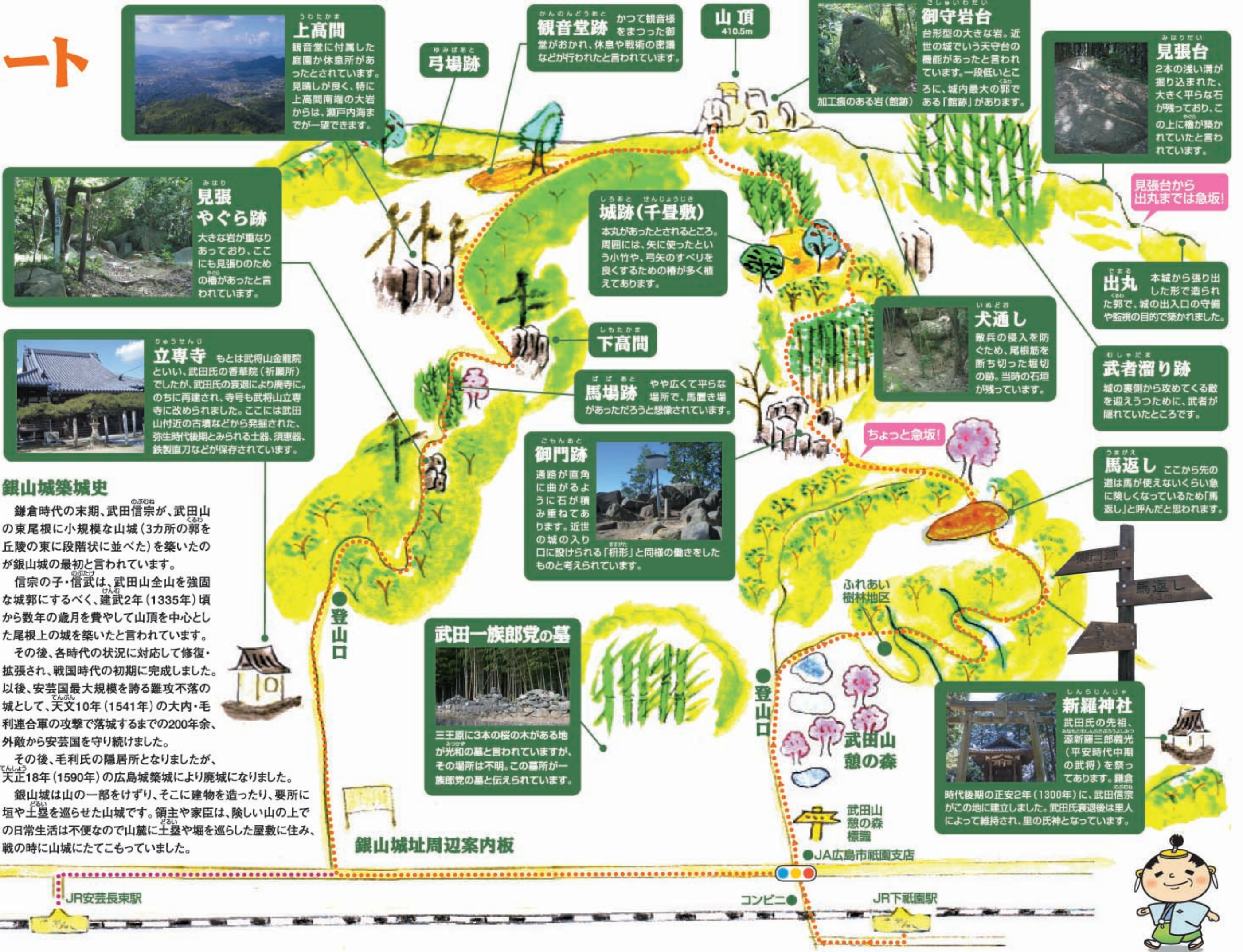
その後、毛利氏の隠居所となりましたが、天正18年(1590年)の広島城築城により廃城になりました。

銀山城は山の一部をけずり、そこに建物を造ったり、要所に垣や土塁を巡らせた山城です。領主や家臣は、険しい山の上での日常生活は不便なので山麓に土塁や堀を巡らした屋敷に住み、戦の時に山城にたてこもっていました。

中世山城のイメージ
※模型は佐伯区・銀山城の発掘調査の成果をもとに制作したものです。
[写真提供: (公財)広島市文化財団]

市民活動等の紹介

- 現在、地域の「宝」である武田山を保全・活用するため、様々な市民活動等が活発に行われています。
- プロジェクト武田山
 - 武田山・火山史蹟保勝会
 - We Love 西公
 - 里山環境保全みどり会
 - 大町観音水を見守る会
 - 祇園町商工会
 - まちづくりプランプロジェクト(安佐南中学校区)
 - 広島経済大学興動館武田山まちづくりプロジェクト
 - 安郷土史懇話会
 - 祇園まちづくりプランプロジェクト
 - 武田山の緑を守る会
 - 安佐南区区内公民館(祇園、祇園西、古市、安)など(順不同)



上高間
観音堂に付属した庭園が休息所があったとされています。見晴しが良く、特に上高間南端の大岩からは、瀬戸内海まで一望できます。

観音堂跡
かつて観音様をまつた御堂がおかれ、休息や戦術の密議などが行われたと言われています。

山頂
410.5m

御守岩台
台形型の大きな岩。近世の城でいう天守台の機能が合ったと言われる。一段低いところに、城内最大の郭である「館跡」があります。

見張やぐら跡
大きな岩が重なりあっており、ここにも見張りのための櫓があったと言われています。

弓場跡

城跡(千畳敷)
本丸があったとされる。周囲には、矢に使ったという小竹や、弓矢のすべりを良くするための櫓が多く残っています。

見張台から出丸までは急坂!

立専寺
もとは武将山金龍院といひ、武田氏の香華院(祈願所)でしたが、武田氏の衰退により廃寺に。のちに再建され、寺号も武将山立専寺に改められました。ここには武田山付近の古墳などから発掘された、弥生時代後期とみられる土器、須恵器、鉄製直刀などが保存されています。

下高間
やや広くて平らな場所、馬置き場があったらと想像されています。

馬場跡
やや広くて平らな場所、馬置き場があったらと想像されています。

犬通し
敵兵の侵入を防ぐため、尾根筋を断ち切った堀切の跡。当時の石垣が残っています。

御門跡
通路が直角に曲がるように石が積み重ねられています。近世の城の入り口に設けられる「枡形」と同様の働きをしたものと考えられています。

ちょっと急坂!

武者溜り跡
城の裏側から攻めてくる敵を迎えうつために、武者が隠れていたところ。

馬返し
ここから先の道は馬が使えないくらい急に険しくなっているため「馬返し」と呼んだと思われる。

武田一族郎党の墓
三王原に3本の桜の木がある地が光和の墓とされていますが、その場所は不明。この場所が一族郎党の墓と伝えられています。

新羅神社
武田氏の先祖、源新羅三郎義光(平安時代中期の武将)を祭っています。鎌倉時代後期の正安2年(1300年)に、武田信宗がこの地に建立しました。武田氏滅亡後は里人によって維持され、里の氏神となっています。

